＜様式＞

学校名	山形市立第九小学校 山形市馬見ヶ崎二丁目５番１号 ＴＥＬ　０２３－６８１－３６００ ＦＡＸ　０２３－６８１－３５１８	校　長	大沼　清司
		研究主任	江口　和輝
研究主題	**豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成（１年次） ～４つの資質・能力の追究～**		
研究主題設定の理由	**【研究主題設定の理由】** **（１）児童の実態と課題から** 本校では、学校教育目標を「未来を拓く人間力のある子どもの育成」、重点目標を「豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成」と掲げている。たくましく育つようにとの願いを込めて「あかしやっ子」と名付けられた子ども達は、素直で真面目に学習に取り組み、基礎基本の力を付けている。本校では、昨年度までの研究で「主体的に考える」、「思いを伝え合う」という２つの視点を切り口に、より深い学びをつくろうとしてきた。１つ目の「主体的に考える」姿とは、①自ら課題を捉えて見通しをもったり解決のための方法を探ったりする姿、②既習事項を生かしながら本気で課題解決に向かう姿である。２つ目の「思いを伝え合う」姿とは、①友達との対話の中で考えを説明したり意見を聴いたりすることで思考を深める姿、②各教科で表現する内容や対象によって用いる言葉を工夫する姿などである。昨年度の実践から、魅力ある単元・課題設定やグルーピングの工夫などが自分事として課題に取り組んだり、話し合いを活発にしたりするときに効果的であることが見えてきた。さらに、子どもの思考にも深まりが見られた。一方で、学びが深まったと言える子どもの姿に、発達段階や教科によって差が見られた。より深い学びを追究する上では、まず子ども達に身に付けさせたい資質・能力をより明確にしていく必要性を学校全体として感じた。そこで、今年度は、本校の子ども達に付けたい資質・能力を大きく４つ掲げ、学校全体で共有し、その力を付けていくための授業を日常的に続けていくことで、深い学びに迫っていきたいと考える。そして、その資質・能力を付けることで、豊かなくらしを自ら創り出す子ども達を育てていきたい。 **（２）学習指導要領の内容を受けて** 学習指導要領では、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養の実現をめざし、学校教育全体を通して、育てたい資質・能力を明確にしながら教育活動の充実を図るものとしている。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、子どもの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。さらに、教科等横断的な視点に立って教育課程を編成し、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を身に付けていく必要がある。これらのことから、本校でも、子ども達に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、カリキュラム・マネジメントを効果的に実践しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて追究していく。 以上のことから、上記のように研究主題を設定した。		

主題・副主題について

【主題・副主題について】

○ 豊かなくらしを自ら創り出す子どもとは

社会や生活の様々な変化を前向きに受け止め、自他共に価値ある存在として尊重し、協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな生活を主体的に創り出していく子どもと捉えている。

○ ４つの資質・能力の追究とは

向上心：進んで挑戦し、やり遂げる力
失敗を恐れず、高みを目指して果敢に挑戦し、試行錯誤や再挑戦を繰り返しながら、あきらめずに粘り強くやり遂げる力

自己指導力：自分で自分を正しく導く力
よりよい生き方を目指して、正しいと思う行為を自分で判断し実行していく力

伝え合う力：聴き合い話し合う力
互いの考えをしっかりと聴き合い、よりよい方法を生み出す話し合いをする力

思いやり：自分も相手も大切にする心
相手を共感的に受け止め、違いを認め合い、自他共に尊重しながら寛容な心で接する力

本校で掲げる「豊かなくらしを自ら創り出す子ども」を育てるためには、現在の子ども達の姿から、上記の４つの資質・能力を付けることが必要であることが話し合われた。このことから、学校教育活動すべてにおいて４つの資質・能力を付けることを意識していく。その中でも特に、子どもを育てる核となる日常の授業において、単元の中でどの力をどんな手立てで伸ばしていくかを日常的に考えていく。

研究の重点

【研究の重点】

・４つの資質・能力を育成する授業実践から研究主題に迫る授業づくりについて学ぶ。今年度は、「学び合い」の授業実践など「子ども主体の学びの創造」を目指す。授業者がその授業で育てたい資質・能力の身に付いた子どもの姿を明確にし、課題設定や学び合い、ふり返りの場面で効果的な手立てを模索していく。学年部を中心に事前研や教材研究を十分に行い、質の高い授業づくりを研究していく。こうして蓄積された成果と課題を日常の授業づくりに生かし、子どもの人間力の向上を図る。
・毎週金曜日は『研究の日』として、研修会を通して授業づくりや教材研究等を行う。
・校外での研修については、その内容を全職員に報告し、日常の授業実践に役立てていく。
・研究だよりを定期的に発行し、有効に活用する。

研究の方法

【研究の方法】

（１）研究組織　（◎研究主任　○研究副主任　☆研究推進委員）

・研究全体会、推進委員会、各学年部会、各学年会で組織する。

研究全体会

推進委員会
校長　教頭　教務主任
各学年および特別支援学級の推進委員

特別支援部	低学年部	中学年部	高学年部
☆小関　友宜子	朝岡　未来子	◎江口　和輝	板垣　洋介
斎藤　亜矢子	☆半澤　和也	西塔　尚也	井上　奈々
冨松　愛	佐藤　豊子	佐藤　佳子	☆萩原　渓太
後藤　靖子	吉田　貴子	有川　美紀子	秋葉　夏希
色部　敦美	山口　史枝	玉城　寛之	川合　智子
交流学級担任	庄司　優果	☆奥山　智晶	伊藤　恵合
	☆後藤　友美	公平　允	○佐藤　かおる
	髙橋　由貴	井場　俊江	秋葉　裕紀子
	今野　和枝		佐藤　篤子
			多田　正晃

（２）授業研究

・授業は大研３回、中研７回の計１０回行う。（講師を招聘する。）

・教科領域は国語・算数・生活科／総合の３つ。
・事前研究は単元構想段階から学年部で行う。
・事後研究会は、より深まる話し合いの形式を考え、研究会での学びを各自でまとめる。
・「校内研だより（お知らせ)」は、各学年および特別支援学級の推進委員が発行する。
・「事後研だより」は授業者が２週間以内に配付し、全職員の日常の授業の向上に役立てる。
・指導案は遅くとも３日前には配付する。（大研は１週間前）

○係の仕事
（推進委員全員で協力しながら係の仕事を進める。必要に応じて仕事を分担する。）

指導案 （研究主任） 事後研だより	・めざす子どもの姿に迫る指導案の形式を整える。 ・日々の授業により生かしやすい事後研だよりの形式を整える。	・指導案の形式検討 ・事後研究だよりの形式の検討 ・研究集録の作成と発送
事後研究会	・より深まる話し合いの形式と、全職員が関わるように役割を分担する。	・事後研究会の持ち方の検討 ・司会や準備物などの作成と役割分担
研究だより	・校外研修内容などを全職員に広め、日々の指導に役立てる。	・研修内容の広報と収集

（３）『研究の日』研修会

・毎週金曜日を「研究の日」とし、授業づくりについて日常的に学び合う場を設定する。

研究の計画

【研究の計画】

	授業者 授業数	講師（メンター制） 参観者	授業日	授業時間	事前研 事後研
大研	学年部１授業 計３回	講師を招聘する。 全員参観	７月 ９月 １１月	５時間目	学年部 全員
中研	学年１授業 計７回	講師を招聘する。 学年部全員参観	随時	５時間目を基本とする。	学年部 学年部

※授業研究の年間計画を立て、見通しを持って実践できるようにする。